

# 圓塾便り

発行者 澤野ともえ  
 発行所 〒615-8205  
 京都市西京区  
 松室中溝町30-11  
 TEL: (075) 382-1238  
 FAX: (075) 382-1239  
 No.13  
 次号2013年夏発行予定

## 新年度は！ 京都ね歩りは歩り

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます！皆さまご機嫌うるわしくお過ごしのことと存じます。旧年中はご愛顧を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

本年も益々、文化財を皆さまの心に活用していただけますよう、一同、誠心誠意努力して参ります！

私はいつも心の中で、圓塾を天空の遊覧船に見立てています。

それは螺旋状に弧を描きながら進む文化財活用船。天空に散りばめられた文化財星に途中停泊しては楽しく文化浴、目指すは圓(ま)どか(ま)で和やかな大宇宙。圓塾スタッフはさしずめ添乗員。

さあ、間もなく二〇一三年度号が出版いたします！

アテンションプリーズ♪アテンションプリーズ♪ご案内申す。



世界の人と共に護り伝える世界遺産、そして私の心に活きる私定遺産：多様な文化の恵みを根掘り葉掘り享受していただけること請け合いです。

どうか皆様、新年も快適な文化の旅をお楽しみください。チケットは圓塾カウンターまで☆

### 富者と貧者の文化(財)

一見センセーショナルなテーマではあるが、長年文化財とあいまみえてきて、常に脳裡をよぎる「視点」でもある。

我々は色々な文化財に触れるべく、多くの時と金をかけて、ある人は観光の一環として、またある人は趣味や勉学のために、先人から受け継がれてきたこの宝物に對峙する。この宝物から人は何を体感するのか、どんなインスピレーションが湧くのか、その醍醐味をどう味わっているのか、他人事ながら大そう興味深い。

小生はとにかく長い間俗物的なモノにしか興味がなく、書物も実字書一辺倒、効率や原価に人一倍関心を寄せる生産成果至上主義、言い換えれば富の増加こそが世の中に平和をもたらすと信じて疑わずに歩んできた。

その為に文化や文化財の「良さ」をややもするとキザな格好付けというか凡人とはちよつと違うぞと気取りたい欲から、うん蓄を挟むといった文化財の形骸視に陥っていたように思

う。だから何をみても興奮しなかつたし、涙が出るほど魂を揺り動かされたことも皆無と言つてよい。多分、文化財を「物」でしかみていなかったのだらう。

人生もその峠に差し掛かつた頃、今の仕事に就く機会に恵まれ「文化財って一体何なんだ？」という思いが急速に立ちのぼりだかつて来た。大勢の人々が文化財に関わるその動きの多種多様性を目にするにつけ、文化財を護り世代を超えて傳承していく仕事の意味を問うと同時に、文化財を市民の宝物として大切に護る仕事には、必ず文化財を見護る上での断片的でも良い、ある種の明確なポリシーが必要ではと思いつつた。

小生の文化財を見護るポリシーは、失笑を買つかもしれないが「文化財の見護りは世界の恒久平和に通じる」である。

大きく分けて文化(財)には富者の威厳の象徴と貧者の血汗の結晶転化の二通りに層別できる。前者は俗に言うメジャーリーグに位置する文化(財)群であり、後者は言い得てマイナーリーグに属するそれらである。このように大別した場合、小生は迷わず後者に強い関心を持つ。

文化(財)の勃興要因の大きな柱として、一握りの権力者やずば抜けた資産家やパトロンの存在が枚挙にいとまがない。恒産恒心とはよく言つたもので、日常食うや食わずでは、品性もさもなく文化に無縁は当たり前。ある程度の富の蓄積とそれに相応しい有識を具備した富者の存在が必要不可欠であることに異論はない。これに對し、もう一方の貧者の文化(財)はどうだらう。具体例を2、3出してみよう。

今、京都でも大流行りの「町家」を例に挙げるなら、いわゆる庄屋や豪商が住まう京町家の類はまさしく富者の文化財の典型といつてもよい。これらに對して同じ町家ではあるが、職人長屋の中に散見される職人町家の佇まいは、貧者の文化財を語るに相応しいモデルであろう。

実は小生の父は永らく京都で友禅職人をしており、まさしくこの友禅長屋で実に七十四年間起居してきた。狭くて暗くて陰湿で、そこに住まう職人達の生活レベルは極貧のそれに等しい。

下職を束ねる大手の流通資本(呉服商社)の物流管理と職人支配にペストなように考えられた長屋造りである。

小生はこれこそが京町家の本来の姿であり、近代日本の殖産興業を必死に支えてきた貧者達の住まいの現実だと思ふ。同じ町家にもこれ位大きな内実の差異がある。

実は文化財を見るなら、この差にこそ注目すべきと思ふのだがどうだらう？表面上の華麗さや荘厳さだけじゃなく、その内面に窺われる人々の営みが透けて見られるものが究極の文化財といつても過言ではない。町家ひとつとっても、この様にメジャーとマイナーとでは大きな違いがある。

次に「祭」をとってみたら、どうだらう？或いは宗教組織からその建築物を見ると何が見えるのだろうか？さらには、人災で破壊された遺構を目にした時、人はその文化財から何を讀み取るべきだらう？

私事ではあるが、常に貧者の文化(財)という観点から私達に残された「宝物」の有難さを実感したく思ふ今日この頃である。

圓塾 小遣い 田中久雄



カササギを韓国ではガッチ (Kkachi) と呼ぶ

昨年の十月初めに韓国を旅した。かつて一六世紀にかけて繁栄した大伽耶国にある海印寺において、ユネスコ世界文化遺産に指定されている高麗大藏経八万枚の、版木の保存に関するシンポジウムに招請されたためでもあった。その後、かねてより百済に興味があったので、一も二もなく公州(熊津(ウンジン))、扶余(泗泚(サビ))という、百済の古都を訪ねることにしたのである。想像以上に不便で僻地なには驚いた。同時に韓国での百済は、いまだに正当に評価されていないこと

# 百済旅愁

お正月飾りに用いられる常緑樹「樫(ゆずり)」。  
この木は新しい葉が生え終わったら古い葉が「あとと頼んだよ」って散っていくことから、「譲る葉」「ユズリハ」と呼ばれるようになったとか。別名、親子草。親から子へ…昔は家系が絶えることなく続くことを重んじたので、大変縁起がよい葉とされてきました。家系にとどまらず、

人は多くのものを譲り受けて、また次の世代へ譲っていく。いつの時代も譲る心と譲られる心、または譲り合ふ心…その受け渡したに果てしない人類のドラマがあるのでしよう。  
とここで「あけましておめでとー」と、



声を掛け合う時節ですが、「めでたし」の語源はご存知でしたか？  
実は「愛めで甚いたし」。甚だ愛しい。とても愛したい気持ちが入められた言葉なんです。おめでとー「こそ、人が心底から譲られたい心、譲りたい心なのかもしれない。二〇一三年は「おめでとー」と言える機会が沢山増えるといいですね！

を感じたのである。暮れなずむ公州の雑木林の中で、食用にするべく黙々と団栗を拾う人達の頭上、鳩よりも大きく、カラスよりも小さいが後ろ姿が似ている「ガッチ」という鳥が群がっていた。日本では「カラスと一緒に帰りましょ」だが、韓国では「ガッチと一緒に帰りましょ」と歌うそう。また幸運を招く鳥だとも言われており、朝鮮半島から日本に渡ってきた人達は、「ガッチ」に似たカラスを八咫鳥になぞらえたのだらうと、ふと思った。

何事もなかったかのように悠揚と南下していたのである。今では白村江ではなく、白馬江と呼ばれている。その流れは、途方もない歳月を内におさめ、私を迎えてくれたのである。  
遠足に来ていた大勢の小学生達と一緒に白村江から日本国に国号を改める原因にもなった白村江の敗戦を、しばらく考えていたのであるが、子供達のくつたくのない姿に我にもどったのである。

千五百年前の定林寺址五層の石塔は、近江の国八日市にある石塔寺の石塔と瓜二つであった。扶余神宮の御祭神であった天智天皇と近江京のことなどが、頭の中をめぐりながら、百済の幻影を見ていたのである。

圓塾 頭目 澤野道玄

- 第1回 お西さんの桃山ルネッサンス 4月14日(日)
- 第2回 殺陣舞 6月8日(土)
- 第3回 蘇る鳳凰堂 10月5日(土)
- 第4回 京都御苑エコロジー 11月17日(日)
- 第5回 東寺の密教体現 2014年1月26日(日)
- 第6回 秦氏をめぐる 2014年3月2日(日)

圓塾さあくる講座

# 京都 ね歩り

## は歩り

参加者募集中!

- 時間：10時～13時半頃(昼食付)
- 参加費：4,800円
- お得なセット価格
- 6回セット：25,000円
- 5回セット：22,000円
- 4回セット：18,000円
- 3回セット：14,000円